

鶴野 馨 著

古今集和哥の助辞

本書は、永年、高等学校で実践を積まれた著者が、「古今和哥集」の全哥について、その〈助辞〉を詳細に追い求めた、全編九百三十三ページにも及ぶ労作である。

著者自らによる「おわりに」を見ると、本書が成るまでには、〈あしかけ六年以上〉の歳月がかげられたという。その根気強い御努力には、僭越ながらただただ頭の下がる思いがするのである。

本書にはふたつの大きな特色がある。

ひとつは、〈助辞〉に関する説明を行うにあたって、「古今和哥集」からの豊富な用例が添えられているということである。この書を繙く者は、各々の〈助辞〉が、どのような和哥のなかで、どのような語との連関のなかで、用いられているかということ、容易に知ることができるのである。

ふたつめは、本書第三部において、著者なりの立場から、「古今

和哥集」の全哥にわたっての〈略解〉が行われているということである。「文法に忠実に」という基本方針を貫いて、一首ごとに注解・口語訳を重ねておられるところには、著者の篤実な姿勢がうかがわれる。

〈助辞〉というものを理解していく上で、好適な案内書と言うことができるだろう。

(A5判、九三三ページ、昭和六十年七月二十三日発行、私家版、非売品)

(山元 隆春)